

# 養父市立広谷小学校

# 令和6年度学校評価

## 1 本年度の学校重点目標

ふるさととつながり、仲間とともに“在りたい未来”を創造する広谷っ子の育成 ～ 明日を心待ちにする学校 ～
--

## 2 本年度の学校重点目標

めざす子ども像	○「強く」ねばり強く主体的に実践する児童 ○「正しく」自ら学び個性を伸ばす児童 ○「美しく」こころ豊かで思いやりのある児童
めざす学校像	○温かさや活気に満ちた学校 ○学ぶ楽しさを感じる学校 ○信頼され、安心・安全な学校
めざす教職員像	○信頼される教職員 ○教育愛に燃える教職員 ○学び続ける教職員
重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>■人権尊重の精神の涵養と「豊かな心」の育成</li> <li>■「確かな学力」と主体的に学ぶ態度の育成</li> <li>■生徒指導の充実</li> <li>■情報教育(ICT教育)の推進</li> <li>■たくましく「健やかな体」の育成</li> <li>■幼小連携、小中一貫教育の推進</li> <li>■自立して未来に挑戦する態度の育成</li> <li>■特別支援教育の充実</li> <li>■家庭・地域との連携</li> <li>■教職員の資質向上</li> </ul>

## 3 学校自己評価結果 (A:優れている B:良い C:おおむね良好 D:要改善)

分野	評価項目・取組内容	達成状況	学校の取組状況○・改善の方策●
(1) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>■「明日を心待ちにする」学校</li> <li>■「地域とともにある学校づくり(含コミュニティスクール)」の推進</li> <li>■チーム広谷の一員としての協働体制</li> <li>■感染症対策等、時々の課題に対応した取組</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○協働体制が整っており、年休等が取得しやすい環境であった。</li> <li>○悩みを抱え込まず、チームで対応するよう心がけることができた。</li> <li>○児童や保護者からの多様な相談に真摯に対応できていた。</li> <li>○区長さんをはじめ、外部の人が学校に足を運んでくださる等、コミュニティ・スクールが進んでいる。</li> <li>○SSSが机やトレイをこまめに消毒をする等、各自が自分の役割を全うできていた。</li> <li>●地域人材を発掘し、活用する必要がある。</li> <li>●登校をしづる児童が数名おり、児童の実態に即した対応を更に行っていく必要がある。</li> </ul>
(2) 予測困難な時代を生き抜く力を育む教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>■「確かな学力」の育成                             <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童の主体性の育成</li> <li>○児童のコミュニケーション力、表現力の向上</li> <li>○学習タイム(チャレンジタイム)等による基礎・基本の定着</li> <li>○ICT機器(含タブレット)を活用した学習活動の充実</li> </ul> </li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○チャレンジタイムでは、学力向上のために国語や算数の基礎的な学習を継続的に取り組むことができた。</li> <li>○独自の体幹トレーニングや書写シートを作成し、チャレンジタイムで継続的に取り組み、ていねいな字を書く児童が増えた。</li> <li>○異学年交流が増え、高学年が低学年のお世話をする姿が、低学年は高学年に憧れ真似をしようとする姿が多く見られた。</li> <li>○グループ活動に積極的に取り組んだり、発表の場を多く設けたりすることで、自分の思いや考えを伝えられる児童が増えてきた。</li> <li>●謙虚に学ぶ姿勢を育てることで、更に確かな学力の上に立つ主体性が伸びていく。</li> <li>●「主体的・対話的な学び」を更に追求することで、児童の話し合う活動の時間を更に確保できる。</li> <li>●特別に支援が必要な児童に対して、ICTを効果的に活用することで、さらに学習活動を充実させることができる。</li> <li>●学力が気になる児童への支援が十分行き届いていないことがある。</li> <li>●1年間を見通してチャレンジタイムの運用を考えることで、更に効果のある取り組みを継続することができる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■「豊かな心」の育成                             <ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもの人権の尊重</li> <li>○子どもの良さががんばり見られる活動の促進</li> <li>○学級活動、児童会活動、異年齢集団活動の充実</li> <li>○いじめや不登校、問題行動等に対応した適切な指導や一人一人に寄り添った丁寧な指導の促進</li> </ul> </li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもの人権に配慮して指導することができた。</li> <li>○いじめに対して、日々の生活の中で随時話題に出し、未然防止に努めることができた。</li> <li>○児童が中心となる学級活動を大切にしたり取り組みを行うことができた。</li> <li>○そうあんくんの日や学年発表など、生活や学習の両面で児童が活動できる場面を設定することができた。</li> <li>○問題行動や不登校事案が起こった際、すぐに各委員会が開かれ、機動的に対応することができた。</li> <li>○ICTを活用した「児童報連相」等によって迅速に共通理解を図り、組織的に指導に当たることができた。</li> <li>○事前の情報収集や児童観察により、多様な場面で個々にあった指導を行い、児童の困り感を軽減することができた。</li> <li>○異学年交流を積極的に行うことにより、思いやりの心を育むことができた。</li> <li>●さらに全体指導と個別指導を上手に使い分けることにより、適切な児童支援を行うことができる。</li> <li>●どのような場面でも丁寧な言葉かけで指導することにより、子どもたちが安心して活動できる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■「健やかな体」の育成                             <ul style="list-style-type: none"> <li>○運動が好きな子の育成</li> <li>○子どもの体力や運動能力の向上</li> <li>○睡眠、排便、歯磨きなど、健康に関する指導の推進</li> <li>○教科や給食、栽培・調理などの体験等を通じた食育の推進</li> </ul> </li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○食育や歯磨き指導に力を入れて取り組んだ。</li> <li>○養護教諭を中心に基本的な生活習慣作りへの働きかけに努めることができた。</li> <li>○やっぷーとやっぴーを招いたねるねるウィーク推進運動や、歯科衛生士さんから教わる歯の健康教室など、新たなことも取り入れつつ、指導することができた。</li> <li>○何度も栄養教諭を招き、自分たちが育てた野菜をつかった調理実習を行い、地産地消の大切さを学ぶことができた。</li> <li>○体育科では、1年間通してリズムジャンプに取り組む、リズム感と持久力を高めることができた。</li> <li>●年間通して行ったリズムジャンプや体幹トレーニングの効果を検証し、来年度に繋げる必要がある。</li> <li>●給食の残食が多い。</li> </ul>
(3) 学びを支える仕組の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>■子どもが安心して、生き生きと学校生活を送る取組</li> <li>■安全点検、避難訓練など、児童の安全を守る取組</li> <li>■特別支援教育の理念に沿った要支援児童への適切な指導や支援</li> <li>■養父校区小中一貫教育や広谷こども園との連携の推進</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○休み時間になると積極的に子どもたちと遊んだり、話したりする等して関係を深めることができた。</li> <li>○定期的にケース会議を持ち、多面的に指導方針を考え、それらを共通理解した上で、支援を行うことができた。</li> <li>○児童が安心して学校生活を送れるように、保護者との連携を大切にすることができた。</li> <li>○養父校区小中一貫教育において、情報を交換したり、共有したりし、実践に繋ぐことができた。</li> <li>●特別支援学級の児童支援において、個に応じた適切に関われるように体制を整える必要がある。</li> </ul>
(4) 家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>■地域の教材や人材を活用した学習の取組</li> <li>■PTA、学校運営協議会、ボランティアグループ等との連携の推進</li> <li>■オープンスクールや学校・学級通信の発行、ホームページ等を活用した学校オープン化の取組</li> <li>■家庭と連携した「そうあんくんの日」の取組</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学びポケットや広谷っ子ブログを活用して学校の様子を頻繁にお知らせすることができた。</li> <li>○学校だよりや学級通信、保健だよりを定期的に発行し、学校の様子をお知らせするとともに連携を図ることができた。</li> <li>○保護者の方に協力していただき、調理実習を行うことができた。</li> <li>○学校行事やオープンスクール等で多くの保護者や地域の方に参加していただき、高評価をいただいた。</li> <li>●地域の方から学ぶ活動を更に充実させることが必要である。</li> <li>●そうあんくんの日の取り組みに温度差があり、さらに啓発を行っていきたい。</li> </ul>
(5) 教職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>■教員としての資質や実践的指導力を高めるための研修の推進</li> <li>■体罰のない児童と心の通い合う温かい人間関係の構築</li> <li>■会議や研修の効率化、情報や物品の整理など、業務改善の推進</li> <li>■超過勤務時間を縮減し、ワークライフバランスの実現</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○超過勤務時間を減らしたり、定時退勤日を守ったりすることができた。</li> <li>○特別支援教育研修や通級担当者会などで新たな学びができ、実践することができた。</li> <li>○問題行動を起こす児童だけではなく、静かに困っている児童にも目を向け、その対応に努められた。</li> <li>○児童が相談しやすい環境づくりや人間関係づくりに努めた。</li> <li>●2年後を見通して、書写教育の研究を進めていく必要がある。</li> <li>●子どもに寄り添った指導を心がけ、身体接触等について、十分配慮する必要がある。</li> </ul>

# (学校自己評価・学校関係者評価)

## 4 総合的な学校関係者評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校重点目標」達成に向けて、教職員が懸命に取り組んでいると感じる場面に度々遭遇した。</li> <li>・日頃の学校の様子について、ホームページに日々アップされており、広く情報発信されていることから、保護者世代には有効に機能している。祖父母世代には、お便りの配布範囲を拡充することにより、学校の様子を広く知っていただけ、今後の学校ボランティアの拡充につながるものと考える。</li> <li>・学校だよりやブログを拝見する度に、学校運営や教育環境が進化・充実していると感じた。</li> <li>・子どもと先生との関係性が良好である印象を受けた。また、職員研修などによりスキルアップを図り、タブレットを多く導入した授業で児童の活用能力の向上など成果を出している。タブレット等の利用については、効果を検証しながら推進されることをお願いしたい。そして、今後も、子どもたちに注力いただきながらも、ワークライフバランスも考慮していただきたい。</li> </ul>
---

## 5 評価項目ごとの学校関係者評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童や家庭の多様性に臨機応変に対応できている。</li> <li>・地域人材の発掘は、地道な声かけが必要。学校運営協議会が中心的な役割を担っていききたい。</li> <li>・保護者アンケートからも学校の取組がよく理解されていることがうかがえる。広く薄くでなく、一点突破での取組も効果がある。</li> <li>・来年度以降、地域愛を育てる教育活動や地域人材の活用、書写教育の研修などを進めていくことを伺い、それらをどうリンクさせていくのか楽しみ。</li> <li>・運動場で元気に走り回る子どもたちと、掃除を頑張っている子どもらを拝見する。これが一番だなといつもうれしく思っている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器の活用は、デジタルグローバル社会において必須のものとなっている。利用方法、効果等を検証しながら一層の推進をお願いしたい。</li> <li>・全国一斉学力状況調査等の結果を踏まえ、基礎学力の向上を目指していただきたい。</li> <li>・ICT機器を授業で使うことは効果的であるが、その準備は大変だと思っている。</li> <li>・外国語等の授業においてオンラインを活用しているのを参観し、ICTの活用が推進されていると感じた。</li> <li>・今後ますます若い先生が増えてくる。全職員の授業研究もあるが、隣組の授業を参観に行く等、日常的に研修ができるとよい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・思いやりのある温かい学校づくりと、いじめなど人権課題に対応できる子どもの育成は、人格形成において大事である。引き続き推進されたい。</li> <li>・子どもたちが何でも相談できるシステム・体制作りには常に取り組んでいただきたい。</li> <li>・今こそ耐えることの重要性を教える必要がある。</li> <li>・様々な取組がなされている。来年度以降も自然体験や地域人材の活用など新たな取組も考えてあり、次年度に向けて十分に準備がなされている。</li> <li>・学校行事をはじめ、学級活動や児童会活動でも自尊心を高める場面や活動は必須である。これからも子どもたちを褒めること、励ますことを続けてほしい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・休み時間に、外で元気いっぱい体を動かす外遊びが全校児童で習慣となるよう、今後も取組をお願いしたい。</li> <li>・「るい瘦」の話題があったが、食育について家庭への周知なども配慮いただきたい。また、学校と保護者・地域が一緒になってアンテナを高くして見守っていかねばいけない。本校でも給食の残食が多いことや、「ヤングケアラー」や「るい瘦」の話があることに驚いた。</li> <li>・スポーツクラブに入っている児童とそうでない児童の体力差はいつも気になる。年間通してリズムダンスや体幹トレーニングで基礎的な体力づくをするを、ぜひ続けていってほしい。</li> <li>・スポーツフェスティバルは、今年度のように全校生で行うやり方が子どもにとってよい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・こども園や中学校との連携とあわせて、養父小、建屋小との養父校区の小学校とも連携を密にとっていくことも重要。</li> <li>・校内ケース会議を定期に開催され、様々な課題の共通理解を図り、個別の支援を要する児童への対応について適切に進めている。</li> <li>・今後も、各関係者、関係機関と連携しながら推進していただきたい。</li> <li>・登下校時の安全確保と校内施設の点検は重要である。学校・保護者・地域で共通理解した取組が重要。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と地域、自治協議会との連携により授業や活動することは、地域の宝である子どもたちを、地域で知ってもらう機会を増やすこととなる。地域の祭りや行事に積極的に参加するよう啓発・指導をお願いしたい。</li> <li>・オープンスクールや広谷っ子ブログ等により、地域に学校を知ってもらう機会を増やしていくことは大事である。</li> <li>・広谷っ子ブログをほぼ毎日更新されていることは、すばらしい。</li> <li>・SNS発信や学校連絡メールの活用など、十分に情報共有ができています。</li> <li>・外遊びの魅力が見つければ、そうあんくんの日がさらに充実するのではないか。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・勤務時間の適正化については、成果をあげられている。今後も取り組んでいただきたい。教職員のワークライフバランスの充実も、子どもと向き合う時間を確保するために必要である。</li> <li>・先生方のワークライフバランスとメンタルヘルスへの取組をこれまで同様をお願いしたい。</li> <li>・様々な研修や会議で、教師の指導力を高める成果を出されているので、引き続き推進されたい。PDCAを共有し、資質向上に励んでいただきたい。</li> <li>・若い先生も多く、職員室も良い雰囲気である。先生方が、日常的に学び合える体制づくりはもちろん、書写教育の研究会に向けて一丸となって取り組んでいただきたい。</li> </ul>